

不撓不屈

ふとうぶくつ

海外メンテナンス対応

森鉄工（佐賀県鹿島市）の主力製品である複合成形可能なファイブプレス（F5P）は海外シェア40〜50%を占め、約20カ国に販売実績を持つ。

社長の森孝一が最近意識しているのが2022年に迎える設立100周年。それに向けてアフターサービスを強化しようとしている。メンテナンス

森鉄工

9/15(日) 日経工業

④

アフターサービス強化

成長期待の製品

スに特化したアフターサービス部を立ち上げ、製品の修理やオーバーホールに対応する。本社には6人の専任者、名古屋事務所には2人を配置した。森は「専任で要望に応えたい」と姿勢を示す。

近年は従来堅調な中国やインドだけでなく、北米や欧州でも販売が好調だ。当然、アフターサービスの需要も出てくる。そこでタイにはメンテナンス会社を設立した。中国でもメンテナンスの合併会社設立を検討しているという。

100周年、加工開発で新風を

孝一は4歳年下の弟、孝信がいて専務を務める。孝一は文系出身で孝信は技術系だ。孝一がF5Pに次ぐ柱として成長を期待する製品のひとつが多軸成形プレス。その開発とユーザー開拓には兄弟の思い出がある。

同社は81年のF5P開発をきっかけに長らくF5Pが主力製品だった。そんな中、多軸成形プレスを進めた。孝信の助けの金はいふ使わされた。国の戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）に採択されて開発しは異なる営業展開をして「孝一は孝信の協力をいった」と振り返る。

得て、売り込み先とのコミュニケーションや営業社長が始め、孝一が一緒に「試作な地域動きが始まっている。森鉄工の主力取引先である自動車業界は電気自動車（EV）の普及や自動運転の実用化など変革期にある。これからの同社の機械でしかできない加工を追求し、走り続ける。

変革期を走る

「ものづくりになつて成長させたい。兄弟には多軸加工や金型などの加工開発を任せたい」と目を向ける。孝一は「おており、高校在学中の資

塑性加工や金型の加工開発を次の目標に掲げる森孝一社長



（敬称略）

（この項おわり。西部

増重直樹が担当しました）